



長野県連婦だより

編集・発行

一般社団法人長野県連合婦人会

会長 中條 智子

〒380-0836 長野市南県町688-2

TEL026-232-6232 FAX026-234-1312

次世代の幸せのために

会長 中條 智子



金木犀の香りに誘われて、秋風がさわやかな季節となりました。婦人会の皆様には県連婦の事業、そして地域での活動にご活躍いただき心より感謝申し上げます。

今年4月14日熊本地震により、熊本県の東家会長も被害にあわれ、娘さんのお宅で同居生活との事ですが、全地婦連の5月の年次理事会に参加され「防災に関する研修会や訓練は何回も重ねてきたが、役に立たなかった」「何事も本気で本気でやるのが大切である」と寄付のお礼を含めて強い気持ちで挨拶されました。

ウイミンセミナーにおいては地域婦人会での「元気でやる気実践事業」の実施にあたって、参考になるようにプログラムを組み、「平和のつどい」においては県連婦の基本方針でもある「国際理解と平和運動への取り組み」が少しでも前進することを願いました。

また、県連婦と県が共同で進めている「イクボス・温かボス(あったかボス)宣言」をすることにより、この取り組みが進むと男性も女性も安心して働くことができ、若い世代の結婚と出産、子育ての社会づくりにつながります。私たちが次世代のためにできる、今最も大切なことなのです。

長野県連合婦人会は1946年5月24日に結成されて、今年で70周年を迎えます。この間すべての婦人が民主社会の一員としてふさわしい力を養い、民主的で健全な社会環境をつくることに、社会教育関係団体として地道な活動を続けてきました。一方で「生涯学習」という言葉の中で、一人一人が自分の個性や能力を伸ばし「自分がよくなればよい」という志向が見られることは、地域や社会をよくしていくことにおいて課題といえます。

少子化が進み少子高齢時代として、将来が危ぶまれる時代となった今こそ、地域の課題解決のため、沢山の知識や実績を積んだ婦人会員さんの力強い活動が、最も重要な時と思います。次世代が幸せな社会であるために、これからも婦人会の活動を盛り上げていきたいと思えます。

防災学習会 飯田市連合婦人会(県婦人会)

《飯田市生活と健康まつり》平成28年10月22日
“防災学習会の内容発表とソフトヘルメットの展示”

防災学習会で学んだこと・わかったこと

どうすれば命を守れるか

- ・身を守る行動(安全ゾーンへの移動・ダンゴ虫のポーズ)
- ・周囲への伝達(身を守れ!・落ち着け!家事だ!)
- ・二次被害への注意(余震・交通事故・単独行動)
- ・災害対策本部への情報伝達・応援要請
- ・複数人での人命救助・物資の確保
- ・人員(有資格者・交代要員)の確保

学習会のまとめ

- 事前対策の必要性を感じながら準備の出来ていない現状を感じた。
- 災害時には地域のコミュニケーション作りが大切。今回の受講者も殆どが高齢者。災害発生時が心配。
- 家・家具に関する防災対策は70%が関心をもっていた。
- 身の回りは整理整頓が大事。



伊勢市と飯田市との交流会第36回目を伊勢市で開催。伊勢市防災センター・一色町津波避難センター等の見学をし、交流会では避難所での必需品をクッション代わりに内蔵したソフトヘルメットを学びました。

主催：一般社団法人長野県連合婦人会 共催：長野県

信州の男性の意識を変える

キックオフ事業

「長野県イクボス・温かボス（あったかボス） 創出プロジェクト」始まる！

平成28年4月11日 於：長野市若里市民文化ホール

イクボス・温かボス（あったかボス）講演会

講師 安藤 哲也 氏

演題 「始めよう！イクボス ～上司が変われば
働き方が変わり家庭・地域が変わる～」

少子化で労働人口が減りつつある中、子育て世代の出産育児時の離職や40～50代の介護での離職者をいかに防ぐかは企業の喫緊の課題です。上司（経営者～管理職世代）の固定化した価値観・仕事のやり方や男女の役割意識が、ワーク・ライフ・バランスつまり男性の育児休暇取得、女性の活躍推進、長時間労働の是正などの妨げとなっています。「男女問わずすべて」の労働者の育児、介護、その他私生活などスタッフの生活事情全般への理解を示し、決められた時間内に緊張感を持って仕事をする事で生産性を向上し、個人も組織もみんながハッピーになる環境をつくる「イクボス」の存在が大切になってきています。



連合長野 中山千弘氏：経営者と話すとき「今、女性で課長とか部長になりたがる人なんかいないよ」と言われる。裏を返すと「自分たちと同じようにサービス残業をして働くなんていう女性はいない」ということなのでしょう。ある議員さんは「女性活躍推進なんていうけど長野県の経済が活発にならないと女性の場なんてないんだよ」と言いました。それは逆ではないでしょうか。男性の意識改革が急務です。

わたしの提言

長野労働局 川崎健氏：労働局の職場といえどもなかなか育児休暇は取れないのが本当のところ。日本人は「自分だけは特別」とかを嫌がったり、皆に迷惑をかけるのは申し訳ないといった感覚が強いのです。法を遵守する、職場に規程を作るといったところから、空気・雰囲気をつくっていくことで進めていきたいと思えます。

長野県副知事 中島恵理氏：県の中でもイクボス・温かボスの宣言をしてもらおうと考えています。宣言事態は簡単です。中身が伴わないと意味がないので、上司が育児休暇・ワーク・ライフ・バランスの制度をきちんと理解すると共に基本的知識を勉強して貰おうと、今準備しています。ボスが職場の中で部下がどのようなことを希望しているのか、家庭の中で問題はないか。個別に面談した上で自身の言葉でイクボス・温かボス宣言をしてもらおう仕組みを導入したいと思っています。



長野県助産師会 田中春海氏：かつて妊婦を集めての“いいお産の日”の講習内容は「安産出産講座」でした。その後「立会い出産」の講座となり、出産にお父さんの立会いが普通になりました。今では、マタニティーセミナーとなり平日でもお父さんが参加するようになりました。その内容は「ワーク・ライフ・バランスについて」。参加したおとうさんが「この話は自分の上司に話してほしかったよ」と言って帰っていきます。

参加数342名約8割がイクボス該当者の男性。熱心にメモを取りながらの聴講でした。

2016年 世界をひとつに 平和のつどい

会場：松本市あさま温泉文化センター
期 日：平成28年8月9日

— 絶対的平和を考える —

講師：高橋卓志氏(松本市神宮寺住職)

平和と命の尊さを考える恒例の催し「いのちの伝承」の一環で企画した原爆の図の展覧を平成10年に初め、今年も神宮寺で公開している。

丸木美術館から借り受けた原爆の図、第四部「虹」〈日本を爆撃に来たアメリカの兵士が捕虜になって広島に兵舎に入れられていました。原爆は敵も味方もなく殺してしまいます。二人の兵士は手錠をはめられたままドームわきの路上に倒れていました。上空高くまで吹きあげられた煙とほこりが、雲を呼び、やがて放射能を含んだ大粒の雨となって、降りそそぎました。〉

原爆の図、第十四部「からす」〈原爆が落ちたあと、一番あとまで死骸が残ったのは朝鮮人だったといひます。日本人はたくさん生き残ったが朝鮮人はちょっとしか生き残らなかったと。からすが飛んできて朝鮮人の死骸の目玉をつついて食べました。屍にまで差別を受けた韓国・朝鮮人。屍にまで差別した日本人。〉を展示する。

丸木夫妻は原爆の図、第一部「幽霊」を1950年に発表。1982年まで32年間描き続け全15部となった。原爆の図は、人間が人間を傷つけ破壊することの愚かさを描いたものだ。二度とこのようなことが起こってはならないという思いで描いたこの「原爆の図」は1970～71年の間アメリカ8会場で展示された。アメリカでは「日本は朝鮮、中国、アジアの国々全体で2,000万人の人を殺している。日本が戦争を起こし侵略して行ったからだ」「丸木さんの絵は被害者の絵だ」と言われた。その後丸木さんの絵は変わっていった。南京大虐殺の図・アウシュビッツの図・水俣の図へと。

私はおとし、アウシュビッツへ行った。そこでは、ユダヤ人、敵対国の捕虜、障害者など130万人が殺されたという。多いときには一日6,000人もユダヤ人が送られたガス室。見せしめのため、絞首刑したという広場。人体実験が行われたとされる実験施設。いずれも平静な気持ちで見ていることはできない。ドイツはこの施設の近

くにセミナーハウスをつくり戦争の凄惨さを世界の青少年に勉強させているという。これが、ドイツの戦争責任のとりかたの一つだ。

平和を掲げて活動している今日お集まりのみなさん。お聞きすると丸木夫妻による「沖縄戦の図」を展示する沖縄県宜野湾市の佐喜眞美術館を誰一人知らないという。丸木夫妻も知らない人が殆ど。あきれました。びっくりしました。

「戦争は二度としない」という誓いを立ててから、70年。しかし、70年は、苦しみを忘れる、痛みが薄れる、悲しみが消え去る年月でもあります。真実を伝えること、判ること、死者を悼むこと、黙っていないこと、それが今必要です。

《松本ユース平和ネットワーク》
の皆さんの発表

信州大学

私たちは小中学校で戦争の悲惨さを映画で見たり教科書の中の物語を読むことで学びました。高校では沖縄へ就学旅行に行き戦争体験者の話を聴くことで学びました。それは、戦争の悲惨さを知ることによって終わっていて、積極的に自ら学ぶことには繋がっていませんでした。戦争が起こってしまった経緯や戦争を起こさないために自分はどうすればよいのか考えることはありませんでした。自然災害は必ず起きる。だから、学び、備えなければいけない。戦争、紛争、テロは人為的に起こされるものです。平和は当たり前存在するように思っていました。「核兵器廃絶のシンポジウム」に参加して「人が手を加えて平和は創られる」ことを学びました。今回の選挙で改憲勢力の自民党が圧勝しました。「積極的平和」を進めていく側に票が入ったということは若者たちは何かを始めなければいけないと思い始めたのだと思います。

松本大学

今、松本は三ガク(岳都・学都・楽都)都と呼ばれていますが、戦時中は軍都と呼ばれていました。歩兵隊第50連隊駐屯地が今の信州大学キャンパスに位置していました。今の松本飛行場にあった陸軍松本飛行場で訓練を受けた若者が沖縄へ飛び立っていき

ました。昭和19年8月～20年5月まで4,437人の子どもたちが児童疎開してきていました。戦時中の松本の様子については初めて知ることばかりでした。今度のこの学びで戦争は自分



にとって無関係ではないと平和について学ぶことの大切さを痛感しました。20歳になるまで選挙権がなく政治に参加する機会がないので、平和について自分のこととして考える必要性を感じていませんでしたが平和について学ぶことこそ、平和を創る一歩になると感じました。



日本国憲法を判り易く書いた 井上ひさし著
—「憲法のこころ」—を朗読しました。

「家族の絆」で特殊詐欺を撃退！

電話機対策をしましょう！

留守番電話設定、家族等の電話番号登録、非通知電話拒否設定などを確実にして特殊詐欺の電話にでないようにするのが一番です！

愛（合）言葉・家族の緊急連絡先を決めましょう！

親子にしか分からない愛（合）言葉や緊急の連絡先をあらかじめ決めておき「ニセモノの息子」を撃退しましょう！

こまめに連絡を取り合いましょう！

普段、連絡を取り合えていないご家族の方とも、連絡を取り合って！

普段から特殊詐欺の話しましょう！

「私は絶対にだまされないよ」は甘い！

信州婦人健康のつどい

日時：平成28年9月8日 於：松本平広域公園内体育館

講師：北アルプス医療センターあづみ病院 統括院長 西澤理氏
演題：“健康な女性骨盤底をめざして”

尿失禁！！



午後の部では軽やかに和やかに運動をしました。今日のつどいの学びを明日から実践、継続しましょう！

「尿失禁」・・・年だから、少しだから、友達もそうだから、ニュース「40歳以上の女性、半数が頻尿」を見て「みんなそうなんだ！」と片付けていませんか。

尿失禁の症状をとともう病気には「骨盤臓器脱」のように子宮や膀胱・直腸など骨盤の中にある臓器が陰から出てしまう病気もあるとのこと。出産回数が多かった、難産だったという人に多く、肥満も要注意だそうです。下腹部の違和感や排尿トラブルが多く、症状は夕方になると強くなる。こんな方は、専門のお医者さん（産婦人科・泌尿器科）で診てもらいましょう。

膀胱の機能的異常による排尿障害（頻尿・尿漏れ・残尿）は薬・減量・体操が有効だそうです。お医者さんに行ってもまずは診てもらいましょう。加齢とともに増える尿失禁。「失禁が心配で旅行に出かけるのもオククウ。」と症状が重くならないよう早目に治したいものです。



平成28年度 一般社団法人長野県連婦役員・郡市会長

下飯伊諏岡塩松安上千長上須	郡市	監事	理會	県連婦役員
伊田那訪谷尻本曇田曲野水坂	市	事	事長	
那市市郡市市市野市市内市	郡			

平森山中上内齋小田竹祖小篠	矢高平山齋篠中
松本崎村沼田藤林中内山林塚	見 沢澤松崎藤塚條
和サ恭喜 は利美晃富律一み	里恒和恭利み智
カ美 づ代美 ち	子子子子恵子子
子エ子子縁子恵子子子子子	